

備前市における公共交通の課題

① 人口の減少と高齢化の進展

- ◆人口の減少した地域では、需要にあった効率的な運行を行うことが必要です。
- ◆また、進展する高齢化に対応するためにも、自家用車に頼らない自立した生活を支える公共交通の構築が必要です。

② 日常生活で利用しにくい運行ダイヤとルート

- ◆通院や買物などで、行きは良くても帰りに利用しにくい路線、通院などが一日仕事になる路線などがあり、公共交通を利用しにくい状況にあります。日常生活を送る上で利用しやすいダイヤやルートを検討する必要があります。

③ 周辺市町に拡散した移動

- ◆備前市では、隣接する岡山市や和気町、瀬戸内市、赤穂市などへの移動が多く見受けられており、市内での消費活動が小さくなっています。これらの移動ニーズに対応しながらも、市外への移動を市内への移動に誘引し、市内経済の活性化に寄与する公共交通の構築が必要です。

備前市における公共交通の課題

④ 利用者の減少

- ◆各種調査の結果より、備前市内の路線にはルートやダイヤなどの改善により利用者が増加する余地があると考えられます。市民の移動ニーズを踏まえて、潜在需要を掘り起こすサービスの提供が必要です。
- ◆また、「公共交通を守る」ということを市民が再認識する必要があります。

⑤ 財政負担の増加

- ◆市営バスの運行や民間路線バスへの補助などにより、行政負担は増加傾向にあります。今後持続可能な公共交通体系を構築していくためにも、需要や居住形態に応じた効率的なサービスを検討し、財政負担が極力少なくなるような対策が必要です。

備前市における公共交通の課題

⑥ 架橋後の公共交通

- ◆ 諸島地区では、平成27年3月には鹿久居島と本土とを結ぶ日生大橋（仮称）が完成予定で、本土から鹿久居島、頭島が陸続きとなります。現在も定期船利用者は年々減少傾向にあり、航路の維持確保が課題となっています。このため、架橋後に離島として残る大多府島・鴻島と本土とを結ぶ旅客船や頭島・鹿久居島の新たな公共交通手段の確保など、架橋後の新たな交通体系の検討が必要です。

⑦ 観光における公共交通の役割

- ◆ 備前市には多くの観光資源がありますが、それぞれが分散しています。これらを結ぶ公共交通も不足しており、マイカー来訪者の増加による渋滞発生や駐車場の不足といった問題も発生しています。
- ◆ 「おもてなし」の考えからも公共交通の充実が求められますが、観光目的での移動に対して、路線バス等で対応することは費用対効果において困難です。これに代わる新たな施策が必要です。

基本理念

地域の生活とまちづくりを支える公共交通

市民が元気に安心して暮らせるまちづくりに向けて、これを支える持続可能な公共交通を目指します。

備前市における公共交通施策の考え方

地域の生活とまちづくりを支える公共交通

基本目標

(1) 生活を支える公共交通

買物・通院・通学といった日常生活を支え、市民が元気に安心して暮らせる基盤づくりのための公共交通を目指します。

(2) 地域活力の向上に資する公共交通

市内の主要拠点間の移動利便性を高め、地域経済の活性化や地域間連携の強化に資する公共交通を目指します。また、観光振興につながる公共交通の役割を検討していきます。

(3) 持続可能な公共交通

交通需要に応じた公共交通の役割分担の明確化により、効率的な公共交通の運用を目指します。また、市民や企業等と協働し、みんなで「つくり」「守り」「育てる」公共交通を目指します。

備前市における公共交通施策の考え方

目標達成に向けた取組方針

① 生活を支える利用しやすい公共交通

- ◆市立病院や市内の主要商業施設への移動について、「行き」と「帰り」それぞれ利用しやすい時間・ルート of 公共交通を構築します。
- ◆公共交通空白地域の解消や、子育てしやすいまちづくりに向けて、子どもから高齢者までだれもが利用しやすい公共交通を目指します。



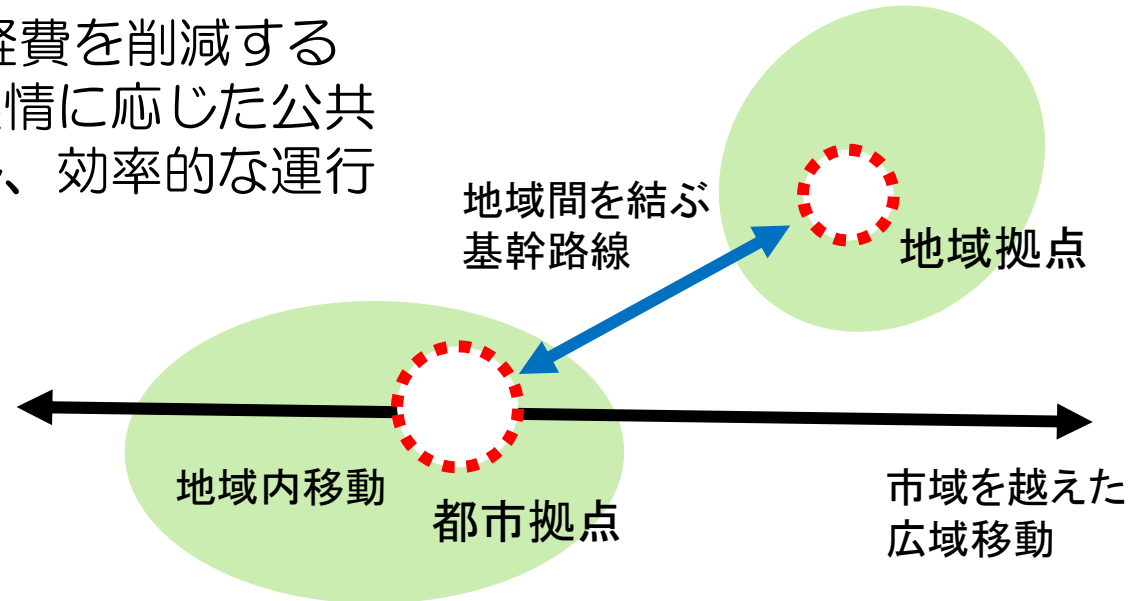
② 市内主要拠点の連携強化

- ◆周辺市町への過度に拡散する移動については、市内の移動へ誘引するための、拠点間を結ぶ基幹路線の充実を図ります。これにより、各拠点の活性化を図るとともに地域間連携の強化を目指します。

備前市における公共交通施策の考え方

③ 役割分担の明確化

- ◆路線の維持に係わる経費を削減するため、需要や地域の実情に応じた公共交通サービスを提供し、効率的な運行を目指します。



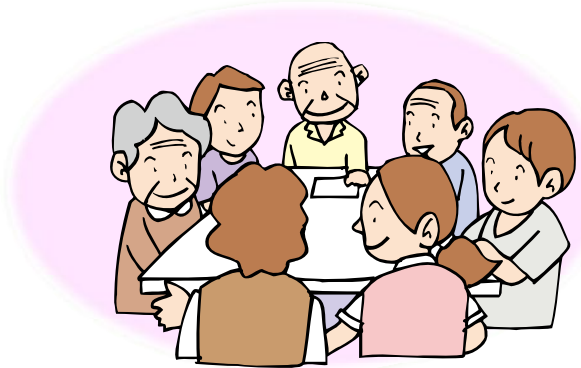
④ モード間の連携強化

- ◆鉄道とバス、バスとバス、航路とバスなど、各モード間の接続強化を図り、公共交通の利便性を高めます。

備前市における公共交通施策の考え方

⑤ みんなで支える公共交通

- ◆ 企業や医療機関、商業施設等と連携しながら、市と市民、事業者等が協働で公共交通を支援していく仕組みの構築を図ります。
- ◆ 子供から大人まで市民一人一人が公共交通について考え、公共交通の利用や支援につながるよう、市民との協働による計画策定やモビリティ・マネジメント*を実施します。



*モビリティ・マネジメント: 一人ひとりのモビリティ(移動)が、社会的にも個人的にも望ましい方向(過度なマイカー利用から公共交通等を適切に利用する等)に自発的に変化することを促す交通政策です。

備前市における公共交通施策の考え方

⑥ 架橋後に向けた諸島地区の交通体系の検討

- ◆架橋完成後の定期船航路や陸上交通のあり方について、事業者と島民等関係者との合意形成を図りながら、架橋後の交通需要に合わせた持続可能な交通体系の構築を進めていきます。

⑦ 観光資源を生かす公共交通

- ◆市内各地に点在する観光地を結ぶため、観光関係者やタクシー事業者などの協力を得ながら、観光資源を活かす公共交通を検討していきます。



備前市における公共交通施策の考え方

地域の生活とまちづくりを支える公共交通

基本目標

(1) 生活を支える公共交通

(2) 地域活力の向上に資する公共交通

(3) 持続可能な公共交通

目標達成に向けた取組方針

①生活を支える利用しやすい公共交通

②市内主要拠点の連携強化

③役割分担の明確化

④モード間の連携強化

⑤みんなで支える公共交通

⑥架橋後に向けた諸島地区の交通体系の検討

⑦観光資源を生かす公共交通

